



がっこうだより

枚方市長尾西町 2 丁目 45 番 1 号 TEL050-7102-9176
E-mail nishinagao-e00@city.hirakata.ed.jp
URL https://www.city.hirakata.osaka.jp/soshiki/6-1-0-0-0_2.html

枚方市立西長尾小学校 令和 4 年 1 1 月号

<西長尾小学校のめざす児童像>

1. 心豊かな子ども（自他を大切に
する、思いやりのある子ども）
2. 深く考える子ども（自ら学び、
考えて行動できる子ども）
3. 心身ともに健康な子ども

一人ひとりが成長できた運動会

ご参観ありがとうございました。

当日は、PTA活動による受付・駐輪場の案内などをはじめ、保護者の皆様のご支援・ご協力により、大成功の運動会となりました。大変にありがとうございました。

一人ひとりが最後まで一生懸命に取り組んだ運動会の団体演技。4・5年生の心のこもった民舞に続き、最後に登場した6年生。一つ一つのきびきびとした動きが、輝いて見えました。

集団行動や、組み立て体操、フラッグによる演技。次から次へと繰り出される技に、この時の、この一瞬にしか表現できない、素晴らしさを感じました。

1~3年生もふくめて、この運動会の取組で、「忍耐力」や「自分の感情や行動をコントロールする力」、「思いやり」や「自信」といった、「非認知能力」を育むことができたように思います。

今後も、日常的な励ましや肯定的な評価を大切に、褒めることで、あるべきより良い行動を、より良い価値観として身につけていけるよう、指導を重ねていきたいと考えています。



修学旅行で学ぶ平和への行動

6年生が修学旅行で訪れる広島市の平和記念公園では、世界平和への誓いを込めて児童全員で作った「千羽鶴」を原爆の子の像に捧げるセレモニーを行います。

6年生のみなさんは、事前学習で、広島で起こったことや、被爆した方々の体験を知り、世界平和のために自分たちができることについて深く考えてきました。

ひろしま ながさき ひばく やまぐちつとむ たいけん 広島と長崎で被爆した山口 彊さんの体験

— 山口 彊 著『ヒロシマ・ナガサキ 二重被爆』朝日新聞出版 より—

1945年8月6日と9日の二度被爆した山口 彊さんは、90歳を超えた2006年8月、生まれて初めてパスポートを取り、アメリカへ渡りました。国連本部とコロンビア大学で自身の被爆体験を語り、核兵器の廃絶と世界平和を訴えました。

2007年7月に、「命の続く限り、国境を越えて、私の体験を通じて得たことを訴えていきたい。心を繋ぎ、手を携えれば世の中を動かすことができるはずだ。」(まえがきより)との思いで行動し、体験を書き残されました。

この本には、山口さんの生々しい被爆体験とともに、なぜ、体験を語り始めたのかという心の内があらわされています。下に一部を紹介します。

<山口さんが体験した8月6日の朝のようす>(以下は著書から)

……やがて電車は終点の江波に着いた。座っているまばらな乗客の前を通り、真先に降りると造船所に向けて歩き出した。

小川の板橋を渡ると、あたりは5メートルくらいの道を挟んで、右手は陸軍射撃場、左手に舟入町が見えた。そこは一面の芋畑だ。

腕時計は午前8時を回ったところ。通勤ラッシュ後のひっそりとしたまっすぐな道があるばかりだった。

芋の葉の上には、まだ乾ききらない朝露がきらきら光り、平凡な夏の広島の一風景がそこに宿っていた。空には雲ひとつなく、太陽が眩しく輝き、首筋を心地よく焼く中、私は歩いていた。

視野の中にただひとり、向こうから近づいてくる日傘をさしたもんぺ姿の婦人を認めた。同時に、遠くかすかに聞き慣れたB29のエンジンの音が聞こえたような気がした。婦人との距離が20メートルくらいまで近づいた時、彼女は急に後ろを振り返って空を見上げ、狼狽した様子を見せた。私もそれにつられて空を見た。(裏に続く)



機影^{きえい}は見えないが、確かにエンジンを吹かせるような爆音がした。それはかなりの高空のようであったが、婦人はなぜか走り出し、近くのクリーク(水路)に身を隠した。その時私は見た、小さな白い落下傘がふたつ、相当の距離を保ちつつ次第にを落下してくるのを。人によっては落下傘は3つあったという人もいるが、そのちょうど打ち上げ花火のような小さな白いふたつの傘は、相当の距離を保って落ちてきた。

「なんだろう？」

そう思った瞬間だった。

地上に白い光が満ち、中空に炸裂^{さくれつ}し、膨張する大火球を見た。まぶたをきつく閉じても見えるくらいの、それは青より白色に近いマグネシウムの色をした大爆発だった。

次いで、ものすごい爆風が私を吹き飛ばした。

かなたの街がねじれ、潰れ^{つぶ}、すべてが、こちらに向かいわっと迫りくる光景が、見るともなく見え、眼底に焼きついた。

前後も上下も見失い、自分が立っているのか、どこにいるのか、すべてがどうなってるのかわからなかった。

映写フィルムのとてるカラカラという音が耳に響くと、なぜか妻や我が子の顔が回転して見えた。私はふたりに懸命に話しかけようとするのだが、妻と子の姿は次第に小さく、暗がりに溶け込み始めた。呼びかけようにも声が出ない。どンドンふたりの顔は暗闇と見分けがつかなくなった。私はそのまま気が遠くなってしまった。

どれくらい意識を失っていたかわからなかった。素肌を焼きごてでやかれるような疼痛^{とうつう}で我に返った。

起き直り、そっと眼を開けた。濛々^{もうもう}と舞い上がる砂塵^{さじん}と爆煙^{ばくえん}で、海底にいるようにすべてがぼんやりしている。爆風で私は芋畑に吹き飛ばされていた。

事態がよく飲み込めず、うわずった気持ちは息をしようにもうまく呼吸ができず、意識は呼吸に取られ、空気の匂いもわからない。

空中を飛ぶ瓦の触れ合う音や物の落下する音、判別のつかない雑多な破壊音が近く遠くをめぐって聞こえたが、それがどういうわけで鳴っていて、何の音なのかわからなかった。それまでに聞いたことのないものの破壊される音と不穏な気配があたりを包んでいた。

それらの音も爆煙もややおさまったとき、私は高空にまで立ち上ったきのこ状の巨大な雲の柱を見た。

それは竜巻のようでありながら、位置を移動するでもなく、その原点を踏まえたまま、頂点ではさらに高く、さらに横に大きく広がり、火山の噴煙のように盛り上がり、湧き、巻き返っていた。
(朝日文庫版 161 ページから 164 ページまで引用)

☆ 西長尾小学校ブログのアドレスが変わっています。

日々の学校の様子は「枚方市立西長尾小学校ブログ」をごらんください。

右の QR コードでアクセスできます。⇒



10月31日 2年生 校外学習

キッズプラザへ行きました。

さまざまな体験の中で、児童一人ひとりの興味関心に響くものがあったようです。



10月11日 1年生 おりづる集会

朝の会 6年生の折り鶴係の代表の児童が、放送と動画配信で、広島への修学旅行に向け、平和を祈念する折り鶴をつくる意義を全校児童に呼びかけてくれました。



10月22日 5年生 運動会

「百花繚乱 ～西長尾ソーラン2022～」

団体演技 南中ソーランです。

ダイナミックで勢いのある民舞、元気な掛け声。北海の荒波を連想させます。



☆ 10月のようす

<西長尾小学校ブログより>

10月28日 4年生 校外学習

京都の文化パルク城陽でプラネタリウムによる学習の後、宇治太陽が丘でレクリエーションをしました。

星空の学習では、地球にいる自分から見た月や太陽、星の動きなどを季節ごとに疑似体験しました。

太陽が丘では、大縄跳びに挑戦しました。



10月7日 3年生 絵本の読み聞かせ

おはなしキューピッドさんが、3・2・1年生の教室で、絵本の読み聞かせをしてくださいました。お話しが始まれば、あっという間に物語の世界へ。

子どもたち自らの想像力の素晴らしさを感じました。

